

**製品名: カスパーゼ 6 ウサギモノクローナル抗体****カタログ番号: AMRe21070**

研究使用のみ

**概要**

説明	組換えウサギモノクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA,IP
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG,Kappa
クローン性	モノクローナル
形態	液体
濃度	0.2mg/ml。本製品の濃度はロットによって異なる場合があります。
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	PBS、50%グリセロール、0.05%プロクリン 300、0.05%保護タンパク質
精製	プロテイン A

**応用**

希釈倍率	WB 1:2000-1:10000,IHC 1:200-1:500,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:5000-1:20000,IP 1:50-1:200
分子量	Calculated MW:33kD;Observed MW:33kD

**抗原情報**

遺伝子名	CASP6
別名	CASP6;MCH2;Caspase-6;CASP-6;Apoptotic protease Mch-2
遺伝子 ID	839.0
SwissProt ID	P55212
免疫原	ヒトカスパーゼ 6 の合成ペプチド

**背景**

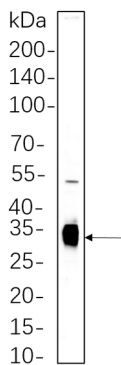
細胞局在: 細胞質。核。この遺伝子は、システイン-アスパラギン酸プロテアーゼ（カスパーゼ）ファミリーに属する酵素をコードする。カスパーゼの連続的な活性化は、細胞アポトーシスの実行段階において中心的な役割を果たす。カスパーゼは不活性なプロ酵素

として存在し、保存されたアスパラギン酸残基におけるタンパク質分解処理を受けて大小2つのサブユニットを生成し、これらが二量体化して活性酵素を形成する。このタンパク質はカスパーゼ7、8、および10によって処理され、カスパーゼ活性化カスケードの下流酵素として機能すると考えられている。この遺伝子の選択的スプライシングにより、異なるアイソフォームをコードする複数の転写産物バリエーションが生じる。[RefSeq 提供、2015年10月]

## 研究分野

-

## 画像データ



HEK293細胞ライセートを4~20% SDS-PAGEで分離し、膜をカスパーゼ6ウサギモノクローナル抗体(1:1000)でプロットした。抗体の検出にはHRP標識ヤギ抗ウサギIgG(H+L)抗体を用いた。